

A 語句の意味と読み

- (1) 白い衣服と冠を身につけて。 / 「はくいかん」。ふつうの外出着ではない色に注目
- (2) 風がものさびしく吹くさま。 / 情景に悲壮感をそえる語
- (3) 勇ましく意気さかな男。ここでは荊軻自身を指す。 / 自分のことを他人のように歌っている
- (4) (巻物が) 尽きる・終わる。ここは地図を最後まで広げること。 / 「行きづまって困る」ではなく「終わりまで来る」
- (5) ひしゅ／短剣・あいくち。 / 地図に巻きこんで隠した暗殺の道具
- (6) あらはる(現る) / 姿を現す。 / ★「みる」ではない。読みと意味の両方が頻出
- (7) そこで・それにつけて。 / 前の出来事を受けて次の動作へつなぐ

B 句法

- (8) 前の動作(白衣冠すること)を受けて、「そうして・そのようにして」と下の動作へつなぐ働き。 / 「Aして、そのうえでBする」とつなぐ語
- (9) 二度と～しない・もはや～しない。 / 「不復」の形。部分否定として扱う教科書が多いが、単に「二度と～ない」と教える教科書もある。お使いの教科書の説明に合わせる
- (10) 秦王が荊軻に、「(献上する) 地図を取れ」と命じた言葉。「取れ」は命令の言い方である。 / 「AニBト謂フ」= 「A

にBと言う」の形

- (11) 「～しようとする」。これから行おうとする意志・目前の動作を表す。 / 実際には刺さっていない点に注意
- (12) 再読文字。「いまだ～ず」と読み、「まだ～ない」の意。 / ★ここは「短剣がまだ体に届かないうちに」

C 主語・指す内容

- (13) 荊軻
- (14) (燕の督亢の) 地図 / この地図の中に匕首が隠されている
- (15) 秦王(政) / ★直前の「奉る」の主語は荊軻。地図を差し出された側、つまり受け取って広げる人物が主語になる
- (16) ⑪⑫ (地図を広げきって匕首が現れたこと)
- (17) 「之」= 秦王(政) / 動作をしたのは荊軻。

D 口語訳

- (18) みな白い衣服と冠を身につけて、荊軻を見送った。
- (19) 高漸離が筑を打ち鳴らし、荊軻はそれに調子を合わせて歌った。
- (20) 風はものさびしく吹き、易水の水は冷たく寒々としている。勇ましい男はひとたびここを去れば、もう二度と還ってはこない。
- (21) 地図を広げきると、(中に隠してあった) 短剣が現れた。

E 内容・記述

(22) 白衣冠は死者を送る喪の装いであり、荊軻との今生の別れを表すため。(三十二字)

(23) 死を覚悟し、生きて帰らぬつもりで出発する決意。(二十三字)

(24) 燕の督亢の地図を献上するふりをして秦王のそばまで近づき、巻いた地図の中に匕首を隠しておく方法。

(25) 匕首があと少しで秦王の体に届くというところまで迫りながら届かなかったことを示し、暗殺が「あと一歩」で失敗した無念さを強く印象づけている。

F 文学史・故事

(26) 『史記』／司馬遷／紀伝体の歴史書／刺客列伝 ／前漢の歴史家。全百三十巻

(27) 図窮匕見（ときゅうひけん）／隠していた本心や陰謀が、最後になってついに露見すること。

(28) 託した人物＝燕の太子丹／秦王政はのちに始皇帝と呼ばれた。

【現代語訳（全文）】

太子（丹）や、事情を知っている客人たちは、みな白い衣服と冠を身につけて荊軻を見送った。（中略）高漸離が筑を打ち鳴らし、荊軻はそれに調子を合わせて歌った。

「風はものさびしく吹き、易水の水は冷たく寒々としている。勇ましい男はひとたびここを去れば、もう二度と還ってはこない。」

（中略）秦王は荊軻に「（献上する）地図を取れ」と言った。荊軻は地図を取って王にささげた。（秦王が）地図を広げる。地図を広げきると、（中に隠してあった）短剣が現れた。

（荊軻は）そこで左手で秦王の袖をつかみ、右手で短剣を持って王を刺そうとした。まだ（短剣が王の）体に届かないうちに、秦王は驚いて、自分から身を引いて立ち上がり、袖は（つかまれたまま）ちぎれた。